

【鳥取県の全体目標】 **がんによる死亡者の減少 75歳未満がん年齢調整死亡率(人口10万対)を70.0未満とする**

(令和5年度まで)

(男女別の目標値 男性：90.0未満 女性：50.0未満)

【中期目標】 **がん周術期治療の均てん化を図る**

(令和3年度～令和5年度)

前年度の目標	・がん手術における低侵襲化率の向上 ・臓器別エキスパート維持・育成	
	前年度Plan	前年度Act
施設ごとで指定された癌腫を設定して以下を評価		
①-1 ・低侵襲化率・術後在院日数の調査・報告		①R3年度の各施設で臓器別の低侵襲手術率、術後在院日数を報告。よい結果の施設はこれを維持し、そうでなかった施設はクリニカルパスの見直し、適応拡大や低侵襲の導入を検討。 ②主に大学病院でのみ育成をおこなっている。維持については各施設およそ達成している。 *①・②ともに対応困難な施設あり
①-2 ・低侵襲化率の低い癌腫、術後在院日数の長い癌腫に対する向上促進 ・ともに良好な癌腫の場合は維持、さらなる向上		
② ・臓器別エキスパート維持・育成の取り組み		

今年度の目標	(肺がん・胃がん・大腸がん) ・がん手術における低侵襲化率の向上 (R4から継続) ・臓器別エキスパート育成；鳥取大学病院のみ対象 (子宮がん) ・子宮がんにおける集約化 (の可能性) (乳がん) ・乳がん治療の質の維持		
	Plan(計画)	Do(実施)	Check(点検・評価)
鳥取大学医学部附属病院 対象癌腫：肺・大腸・胃・乳腺・子宮 (肺がん・胃がん・大腸がん) ① ・2022年低侵襲化率・術後在院日数の調査 ・2021年分と比較と成果分析 ② ・臓器別エキスパート育成と成果 (子宮がん) ・2022年手術件数・低侵襲化率の調査し2021年分と比較 ・該当施設における子宮がん治療の将来展望について (乳がん) ・有資格者一人あたりの手術患者診療数が多かった施設対象に治療の質を維持しつつ負担を減らすための具体的施策 ・該当施設における乳がん治療の将来展望、見直し	(肺がん・胃がん・大腸がん) ①・2022年低侵襲化率・術後在院日数の調査を行った。 ②・若手に執刀機会を増やした。 (子宮がん) ・2022年手術件数・低侵襲化率の調査した。 ・婦人科医師にコメントを依頼した。 (乳がん) ・乳がん診療医師らにコメントを依頼した。	(肺がん・胃がん・大腸がん) ①2021年調査結果と比較分析し、低侵襲化と在院日数は良好な結果であった。 ②・若手の手術経験が増加 (子宮がん) ・2021年調査結果と比較分析した。県内全体での件数と施設ごとの症例数のうちわけが明らかになった。 ・婦人科医師よりコメントあり。 (乳がん) ・乳がん診療医師よりコメントあり。	(肺がん・胃がん・大腸がん) ①低侵襲化はプラトーに達している ②これまでどおりの方針 長期的な育成の継続 (子宮がん) ・診療科医局の方向性に依存 (乳がん) ・1人あたりの負担増のなか診療維持。 ・診療科医局の方向性に依存